



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research



ANNUAL REPORT

2024年度

IIR

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

IIR

ANNUAL REPORT

2024年度

ANNUAL REPORT 2024年度

INDEX

目次

はじめに	
一橋大学イノベーション研究センターについて	i

I. 研究活動	01
1) イノベーション研究フォーラム	02
2) ブラウンバッグランチセミナー	03
3) 国際シンポジウム等	04

II. 研究員	07
1) 専任研究員	08
2) 特任研究員	20
3) 兼任研究員	22
4) 外国人研究員（客員）	22

III. 教育活動	23
1) 講義	24
2) イノベーションマネジメント・政策プログラム	31

IV. 研究成果および刊行物	33
1) 一橋ビジネスレビュー	34

一橋大学イノベーション研究センターについて

一橋大学イノベーション研究センター（IIR）は、以下3つのミッションを達成するために1997年4月に発足しました。

- － イノベーションの実証かつ理論的研究の実施
- － イノベーションに関する理論と実践の架け橋になること
- － 世界に開かれた研究拠点・知識融合の場となること

このようにIIRは、イノベーションに関する学術研究にとどまらず、広く実業界とも連携した世界的研究拠点を目指しています。

技術革新から組織革新に至るイノベーションが、社会発展に大きく貢献してきたことは歴史を垣間見れば容易に理解されます。日本のような天然資源に乏しく多くの人口を抱える国が発展を続けるためには、自ら「イノベーション」を生み出すことが必須です。特に欧米諸国にキャッチアップするかたちでの成長が望めなくなった1990年代以降、イノベーションの重要性は大きく高まりました。しかしながら、発明が生まれ、それが産業発展へと実を結ぶまでの長いイノベーションの生成プロセスに対する私たちの理解はいまだ不十分な状況にあります。

イノベーションはすぐれて社会的な営みです。それは経済、政治、組織、歴史、法制度などが相互に関連した複雑な社会現象であり、このプロセスを解明するには、社会科学の様々な専門領域が結集すると同時に、自然科学の知見も取り込みながら、学際的かつ体系的に研究を行う「場」が必要となります。IIRが、日本における産業経営研究の中核組織であった一橋大学商学部附属産業経営研究施設（＝産業経営研究所）を発展改組するかたちで設立された背景には、こうした時代の要請がありました。

IIRの研究領域には、技術、組織、経営手法などのイノベーションを促進する要因を解明する「技術革新研究」・「経営革新研究」、イノベーションの主体である革新者個人の特徴を解明する「革新者研究」、企業、大学、個人などの主体間のつながり方がイノベーションに与える影響を解明する「ネットワーク研究」、イノベーションの背後にある歴史的コンテキストを理解し、その発展プロセスを経時的に追求する「経営史研究」・「技術史研究」、知的財産権などの法制度や会計制度などがイノベーションに与える影響を明らかにする「イノベーション制度研究」、実証研究を大きな理論的な視座から統一的に理解しようと試みる「知識経営研究」、そして、国際的な比較実証分析を行う領域として「国際比較研究」があります。

IIRでの研究が、日本の企業組織や市場、さらに政治や経済の大きな枠組みを創造的に破壊して新しい発展段階へと導く上での重要な契機となるものとわたしたちは信じています。イノベーションの社会的プロセスの研究拠点になる一日本社会が、そして国際社会がイノベーションを進める上で必要とされる能力の、その強化と向上に貢献することを社会的使命として、国の内外を問わず、大学、企業、官界から広く人々が集まって共同で研究することができるような拠点づくりを目指していきます。

沿革

1944年	11月	産業経営の理論的・実証的研究を行う学内の機関として発足した
1945年	5月	名称を東京商科大学産業能率研究所とした
1949年	5月	一橋大学産業経営研究所に改称した
1953年	6月	機関誌『ビジネス レビュー』発刊
1957年	4月	一橋大学商学部附属産業経営研究施設として官制化された
1997年	4月	一橋大学イノベーション研究センターとして学内共同教育研究施設に改組されて発足した
2000年	9月	機関誌『一橋ビジネスレビュー』新創刊
2012年	4月	商学研究科の附属研究施設となった

I. 研究活動

BR

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. イノベーション研究フォーラム——2024年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究に関する研究会を、他大学の研究者、企業人、官界人らを交えて、月1回程度のペースで行っている。

<https://www.iir.hit-u.ac.jp/blog/2024/04/12/forum-2024/>

国内の研究者にとどまらず、海外の研究者の研究発表を積極的に主催することにより、国際的な研究交流を活発に行い、研究水準のさらなる向上に努めている。

4月19日	Emilene Leite “Global versus Local CSR Strategies to Re(gain) Legitimacy after a Socio-ecological Disaster: The Case of Vale’ in Brumadinho (Brazil)” (Senior Lecturer, Örebro University, Sweden)
4月24日	Dong-hyu Kim “Effects of Standards on Patents and Strategic Approach to Technical Standardisation” (Senior Lecturer, University of Glasgow)
	Yuheng Ding “Mega Firms and Recent Trends in the U.S. Innovation: Empirical Evidence from the U.S. Patent Data” (Economist, World Bank)
4月25日	Hee-Chan Song “Doing and Writing Qualitative Study: A Case of Buddhist Temples” (Assistant Professor, Chulalongkorn University, Thailand)
5月15日	Paul Jensen “The Effect of University-Industry Collaboration Subsidies on Firm Performance” (Professor, University of Melbourne)
7月8日	Paul Wiegmann “Measuring Societal Impacts of Standards” (Assistant Professor, Eindhoven University of Technology)
8月23日	金赫峻 (Kim Hyukjoon) 「韓国の産業財産権（特許・意匠・商標）データの活用：産業財産権データ活用に関する新法について」 (韓国知識財産研究院 研究委員)
	沈賢姪 (Shim Hyun-joo) 「AI と著作権：韓国の状況」 (韓国知識財産研究院 副研究委員)
10月23日	Hang Yuan “Imprinted Language Policy in Post-Colonialism: Unraveling the Tapestry of Language Policies in MNEs and their Efficiency Paradigms” (Ph.D. Candidate in Management Studies, Graduate School of Commerce, Waseda University)
12月18日	Michael Cusumano “The Impact of Platform Business Models on the Valuations of Unicorn Companies” (Sloan Management Review Distinguished Professor of Management, MIT Sloan School of Management / Visiting Professor, Institute of Innovation Research, Hitotsubashi University)

2. ブラウンバッグランチセミナー——2024年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究フォーラムに加え、ブラウンバッグランチセミナーを不定期に開催している。

<https://www.iir.hit-u.ac.jp/blog/2024/04/12/brownbag-2024/>

発表者については学内、学外、院生、教員を問わず、テーマはイノベーションに限定せずに、比較的アリーステージの研究の発表の場を提供し、活発な交流を行っている。

- | | |
|--------|--|
| 4月4日 | 小泉 秀人
“How Much of Merit Is Due to Luck? Evidence on the Butterfly Effect of Luck”
(独立行政法人経済産業研究所 研究員) |
| 4月25日 | Sandra Hasaneftdic
“Smarter Wellbeing: How to Upscale Breakthrough Technologies for the Environmental and Societal Good”
(Group Founder Breakthrough Tech Innovation, Assistant Professor in Breakthrough Technology, Faculty of Science, Vrije Universiteit Amsterdam, the Netherlands) |
| 7月24日 | Francesca Mariotti
“Recombinant Innovation and Interfirm Networks in the Motorsport Industry”
(Senior Lecturer, Cardiff School of Management, Cardiff Metropolitan University) |
| 9月10日 | Ilir Haxhi
“After the Collapse: Spontaneous Institutionalization and the Emergence of Market Institution”
(Associate Professor of Strategy & International Management, Amsterdam Business School, University of Amsterdam) |
| 10月22日 | 横澤 公道
“Anxiety that Drives Kaizen: A Strategic Blueprint for Kaizen Implementation Across Borders”
(横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 教授) |
| 2月6日 | Patrik Ström
“Japan-EU Relations in Times of Changing Geopolitical and Geoeconomic Dynamics”
(Director, European Institute of Japanese Studies (EIJS) and Center for Asian Studies (CAS), Stockholm School of Economics) |

3. 国際シンポジウム等

■ 「IIR Innovation Research Workshop 2024」

Venue: Mercury Tower 7F, Hitotsubashi University and Zoom Online

Date: August 29-30, 2024

Organized by: IIR, Hitotsubashi University

August 29

Language: English

Welcoming Message:

10:00-10:10: Masaru KARUBE

Session: Tech Trajectory (Chair: Kentaro NAKAJIMA)

10:10-10:40: Natsuki KAMAKURA

“Revisiting the Periphery Concept in the Geographies of Innovation and its Applicability to Technological Trajectory”

10:40-11:10: Ichiro WATANABE

“Topic Modeling Analysis of Technological Trajectory Formation Dynamics: A Case Study of the Computer Graphics Industry”

11:10-11:40: Joonwoo SON

“From Aggregate Mirrors to a Singled-out Goal: How Japanese Economic Planning Experimented with Performance Indicators, 1960-1969”

Session: IP Analytics (Chair: Tohru YOSHIOKA-KOBAYASHI)

13:00-13:30: Yin LI

“Government-Business Relations and Strategic Patenting: Evidence from China’s Patent Boom”

13:30-14:00: Junya KATAOKA

“Changes in the Evaluation of Knowledge Disruptiveness over Time: An Exploratory Analysis Using Patents”

14:00-14:30: Chan-Yuan WONG

“How City Patenting Fosters Entrepreneurship: A Nexus between Local Firm Ventures and Short Cycle Technologies”

Session: Organization (Chair: Ivar PADRÓN-HERNÁNDEZ)

14:45-15:15: Francis PARK

“Is the Boss Always Right? Discerning the Effects of Hierarchy on Exploration and Exploitation”

15:15-15:45: Seokkyun WOO

“Increasing Supporting Careers Explains the Reduction in Gender Inequalities in Science”

15:45-16:15: Najoung LIM

“Demand-led Standardization: How User Involvement Shapes Voluntary Standard Setting”

Session: Invited Session (Chair: Yaichi AOSHIMA)

16:30-17:50: Akira TAKEISHI

“これまでの研究と僥倖 / My Research and Hazards”

August 30

Language: English

Session: Ph.D. Session (Chair: Tohru YOSHIOKA-KOBAYASHI)

10:00-10:30: Takaki OHYA

“Too Safe to be Creative?: Curvilinear Consequences of Psychological Safety Climate”

10:30-11:00: Haruki OKAWA

“Exploring the Effect of Entrepreneurial Ecosystem Elements on Entrepreneurship in Cultural Context – Configurational Approach with QCA –”

11:30-12:00: Ziming WANG

“The Strategy of Royalty-Free Licensing and its Impact on Firm Innovation: The Case of Tesla”

Session: Entrepreneurship (Chair: Tohru YOSHIOKA-KOBAYASHI)

13:00-13:30: Cole SHORT

“Advancing Entrepreneurship Theory with Generative Artificial Intelligence”

13:30-14:00: Alexandra CARST

“Green Entrepreneurship: A Systematic Review”

14:00-14:30: Huo DONG

“Academic Entrepreneurship beyond Bayh-Dole Act: A Study of Repeated Secondment”

Closing Message:

14:45-15:00: Kentaro NAKAJIMA

II. 研究員

RI

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

RI

1. 専任研究員——2024年度



青島 矢一

■ 履歴

- 1987年 一橋大学商学部卒業
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科博士課程入学
- 1991年 マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院博士課程入学
- 1996年 Ph.D. (経営学) マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1996年 一橋大学産業経営研究所専任講師
- 1997年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 1999年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2012年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2018年 一橋大学イノベーション研究センター長 (～2024年3月)
- 2023年9月 組織学会 会長 (～2025年8月)

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

- 吉田聖崇・青島矢一「ビジネス・ケース ユニファ：TOPPAN CVC との価値共創」『一橋ビジネスレビュー』72巻2号, 2024年10月, 130-143頁
- 新海博章・荻津健史・諏澤岳広・伊藤太郎・秋野里奈・高木真規子・青島矢一「ビジネス・ケース 花岡車輛：『台車』兄弟による老舗物流機器メーカーの変革」『一橋ビジネスレビュー』72巻3号, 2024年12月, 148-160頁
- 阿部亮平・矢野孝彦・若井理恵子・青島矢一「ビジネス・ケース ワークマン：客層拡大に向けた自走型組織への変革」『一橋ビジネスレビュー』72巻4号, 2025年4月, 124-136頁



江藤 学

■ 履歴

- 1983年 大阪大学基礎工学部卒業
- 1985年 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了
- 1985年 通商産業省入省
- 1989年 科学技術庁科学技術政策局（～1990年）
- 1994年 米国ニューメキシコ大学客員研究員
- 1995年 筑波大学社会科学系講師（～1997年）
- 2000年 外務省経済協力開発機構日本政府代表部（在パリ）
- 2004年 （独）産業技術総合研究所
- 2006年 経済産業省産業技術環境局 認証課長
- 2006年～ 経済産業研究所 コンサルティングフェロー
- 2008年 博士号（工学） 東北大学
- 2008年 一橋大学イノベーション研究センター教授（～2011年3月）
- 2011年 日本貿易振興機構ジュネーブ事務所長（～2013年7月）
- 2013年 一橋大学イノベーション研究センター特任教授（～2016年）
- 2016年 一橋大学イノベーション研究センター教授（～2024年3月）
- 2024年～ 一橋大学イノベーション研究センター特任教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. その他

江藤学「ビジネスにおける標準化の活用 (1)-(8)」(一財)日本品質保証機構 HP 特設サイト
『事業基盤の強化を考える情報サイト』隔月連載中, 2024年4月～

江藤学「通信における標準化の目的とその役割」『B-plus: 電子情報通信学会通信ソサイエ
ティマガジン』69号, 2024年夏, 6-8頁

2. コンファレンス, 学会発表

入谷京・江藤学・三沢和彦「研究成果の普及を推進するイノベーションの相互作用を生み
出す研究体制」研究・イノベーション学会 第39回年次学術大会, 2024年10月26日・オ
ンライン開催

江藤学「技術の普及における世界標準の重要性」腐食防食学会 第200回腐食防食シンポジ
ウム, 2025年2月6日, 東京理科大学森戸記念館, 招待有り



大山 睦

■ 履歴

- 1997年 横浜市立大学商学部卒業
- 1999年 慶應義塾大学 修士（経済学）
- 2002年 シカゴ大学 修士（経済学）
- 2008年 ニューヨーク州立大学バッファロー校 Ph. D.（経済学）
- 2008年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 IGB ポスドク研究員
- 2009年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校マネジメント学部講師
- 2010年 北海道大学経済学研究科准教授
- 2015年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年4月 メリーランド大学ロバート・スミス・ビジネススクール 客員研究員
(~2018年3月)
- 2022年 一橋大学イノベーション研究センター教授 (~2024年12月)
- 2025年~ 一橋大学大学院経済学研究科教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

- Scur, Daniela, Scott Ohlmacher, John Van Reenen, Morten Bennis, Nick Bloom, Ali Choudhary, Lucia Foster, Jesse Groenewegen, Arti Grover, Sjoerd Hardeman, Leonardo Iacovone, Ryo Kambayashi, Marie-Christine Laible, Renata Lemos, Hongbin Li, Andrea Linarello, Mika Maliranta, Denis Medvedev, Charlotte Meng, John Miles Touya, Natalia Mandirola, Roope Ohlsbom, Atsushi Ohyama, Megha Patnaik, Mariana Pereira-López, Raffaella Sadun, Tatsuro Senga, Franklin Qian and Florian Zimmermann, “The International Empirics of Management,” *Proceedings of the National Academy of Sciences*, Vol. 121, No. 45, November 2024
- Kang, Byeongwoo, Rudi Bekkers and Atsushi Ohyama, “The Determinants of Parallel Invention: Measuring the Role of Information Sharing and Personal Interaction between Inventors,” *Research Policy*, Vol. 53, No. 10, December 2024, refereed

2. コンファレンス, 学会発表

- Ohyama, Atsushi, “Business Expectations, Forecast Errors and Dynamics of Transaction Networks,” European Economic Association Meetings, August 26, 2024, Rotterdam, Netherlands
- Ohyama, Atsushi, “The Impacts of Management and Organization on the Use of Advanced Technology,” Asia Pacific Innovation Conference, October 5, 2024, Manila, Philippines
- Ohyama, Atsushi, “Business Expectations, and Forecast Errors in Interconnected Economy,” Empirical Management Conference, December 13, 2024, Harvard Business School, Boston, U.S.A.



軽部 大

■ 履歴

- 1993年 一橋大学商学部卒業
- 1995年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了 修士（商学）
- 1998年 一橋大学大学院商学研究科博士課程修了 博士（商学）
- 1998年 東京経済大学経営学部専任講師
- 2002年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2006年 フルブライト客員研究員（プリンマーカレッジ，ペンシルベニア大学ウォートンスクール，2007年12月まで）
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2023年～ 京都大学大学院経営管理研究部グリーンアントレプレナーシップ研究寄附講座客員教授
- 2024年～ 一橋大学イノベーション研究センター センター長

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

軽部大・古瀬公博・内田大輔『はじめよう！経営学入門』有斐閣，2025年，352頁

1.2. 翻訳書

ベン・M・ベンサウ（著），軽部大・山田仁一郎（翻訳）『血肉化するイノベーション：革新を実現する組織を創る』中央経済社，2025年，264頁

1.3. 論文，本の1章

軽部大・宮澤優輝・山田仁一郎「ビジネス・ケース レノバ：持続可能な社会を形にする」『一橋ビジネスレビュー』72巻1号，2024年7月，172-188頁

2. コンファレンス，学会発表

Karube, Masaru, Avimanyu Datta, Yuki Miyazawa and Gentaro Fujita, “Authenticity Reconfiguration: Forging Cultural Rituals and Modern Trends,” Craft and Emerging Forms of Organizing Kyoto, April 13, 2024, Kyoto University, invited

Miyazawa, Yuki, Tatsuki Tachibana and Masaru Karube, “Exploring the Effect of Market Categories’ Distinctiveness: A Case of Japanese IPO Firms,” Journal of Management Studies Publishing Workshop, May 26, 2024, Yokohama National University, refereed

軽部大・太田恭輔「日本企業におけるジェンダー・ダイバーシティ：女性取締役と女性管理職の先行要因に関する実証研究」企業と社会フォーラム，2024年6月1日，慶應義塾大学日吉キャンパス，招待有り

太田恭輔・軽部大・内田大輔「ジェンダー規範に対する企業の脱連結行動：日本企業における女性取締役と女性管理職に関する実証分析」2024年度組織学会研究発表大会，2024年6月23日，明治大学駿河台キャンパス，査読有り

上杉勇人・軽部大・内田大輔「何が企業の環境情報開示行動に影響を及ぼすか：日本企業によるTCFD提言に基づく開示の普及に関する実証研究」2024年度組織学会研究発表大会，2024年6月23日，明治大学駿河台キャンパス

Jikuya, Yasutaka, Tatsuki Tachibana, Jin-ichiro Yamada and Masaru Karube, “Entrepreneurial Responses to Climate Change: Bridging Innovation and Activism in Sustainable Entrepreneurship,” The SASE 2024 Conference, June 28, 2024, University of Limerick, Limerick, Ireland

軸屋泰隆・橘樹・軽部大・山田仁一郎「地球規模の挑戦課題と企業家研究：文献サーベイからの俯瞰」企業家研究フォーラム年次大会，2024年7月20日，大阪産業創造館

Karube, Masaru, Avimanyu Datta, Tatsuki Tachibana and Yuki Miyazawa, “Reconstructing Legacy across Generations: A Case of Grand Seiko’s Launching of the ‘Spring Drive’,” 84th Annual Meeting of the Academy of Management, August 12, 2024, Chicago, Illinois, USA, refereed

軸屋泰隆・軽部大・山田仁一郎・橘樹「企業家研究の未来：自然と社会の相互依存関係を捉え直す」日本経営学会 第98回全国大会，2024年9月7日，中央大学

Karube, Masaru, Avimanyu Datta and Yuki Miyazawa, “Reconfiguring Authenticity: An In-depth study of Matcha Tea,” 85th Annual Meeting of the Academy of Management, July 25-29, 2025, Bella Center Copenhagen, Copenhagen, Denmark, refereed



カン ビョンウ

■ 履歴

- 2006年 東北大学工学部卒業
- 2008年 東北大学大学院工学研究科博士前期課程修了
- 2008年 LG Electronics 研究員（～2011年）
- 2014年 東京大学大学院 Ph.D.（技術経営戦略学）
- 2014年 アジア経済研究所研究員（～2016年）
- 2016年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 2019年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2025年4月～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

Kang, Byeongwoo, Rudi Bekkers and Atsushi Ohyama, “The Determinants of Parallel Invention: Measuring the Role of Information Sharing and Personal Interaction between Inventors,” *Research Policy*, Vol. 53, Issue 10, December 2024, pp. 1-16, refereed



中島 賢太郎

■ 履歴

- 2003年 東京大学経済学部卒業
- 2008年 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了 博士（経済学）
- 2008年 東北大学大学院経済学研究科
地域経済金融論寄附講座（七十七）准教授
- 2010年 一橋大学経済研究所経済制度研究センター准教授
- 2011年 東北大学大学院経済学研究科准教授
- 2017年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2023年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

Nakajima, Kentaro, Tsuyoshi Tsuru and Katsuhito Uehara, “The Impact of Brokerage in a Communication Network on Productivity: Evidence from Sensor Data,” *Connections*, Published Online: May 29, 2024, referred
<https://sciendo.com/article/10.21307/connections-2019.030?tab=article>

中島賢太郎「土地利用規制が地価に与える影響の分析」『住宅土地経済』（日本住宅総合センター（編）），No. 134，2024年10月，10-19頁

Hiroyasu Inoue, Kentaro Nakajima, Tetsuji Okazaki and Yukiko Saito, “The Role of Human Interaction on Innovation: Evidence from the Spanish Flu Pandemic in Japan,” *Japanese Economic Review*, forthcoming, refereed

2. コンファレンス, 学会発表

Nakajima, Kentaro, “The Role of Human Interaction on Innovation: Evidence from the Spanish Flu Pandemic in Japan,” 13th European Meeting of the Urban Economics Association, June 7, 2024, Aalborg University, Denmark

Nakajima, Kentaro, “The Role of Human Interaction on Innovation: Evidence from the Spanish Flu Pandemic in Japan,” International Conference “Economic and Social Dynamics in a Changing World: Insights from Spatial Economics,” October 25, 2024, RIETI, Tokyo, invited

Nakajima, Kentaro, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” 19th East Asian Economic Association International Conference, November 1-2, 2024, Thammasat University, Bangkok, Thailand, invited

Nakajima, Kentaro, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” Hitotsubashi U - U Amsterdam Joint Workshop on Urban Economics and Real Estate Studies 2024, December 18, 2024, Hitotsubashi University, Tokyo, invited

Nakajima, Kentaro, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” International SPACE Workshop, May 11, 2025, Shanghai Jiao Tong University, Shanghai, China, invited

Nakajima, Kentaro, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” Conference on Transition and Economic Development, May 13, 2025, Fudan University, Shanghai, China, invited

Nakajima, Kentaro, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” Economics Seminar, May 15, 2025, Shanghai University, China, invited

Nakajima, Kentaro, “Workplace Communication and Productivity: Insights from Wearable Sensor Data and Leadership Training Program,” Economics Seminar, May 23, 2025, Nagoya City University, Aichi, invited

Nakajima, Kentaro, “Workplace Communication and Productivity: Insights from Wearable Sensor Data and Leadership Training Program,” Sixth World Labor Conference of SOLE, June 28, 2025, Westin Harbour Castle, Toronto, invited



パドロン=エルナンデス イバ

■ 履歴

- 2010年 ヨーテボリ大学商・経済・法学部 国際ビジネス専攻 卒業 (B. Sc. 取得)
- 2011年 日欧産業協力センター研修員 (～2011年9月)
- 2012年 ヨーテボリ大学大学院経営管理研究科 国際ビジネス・貿易専攻 卒業 (M. Sc. 取得)
- 2017年 ストックホルム商科大学 欧州日本研究所 連携研究員 (～2023年7月)
- 2018年 日本学術振興会 外国人特別研究員 (欧米短期) (～2019年1月)
- 2018年 ストックホルム商科大学 欧州日本研究所 日本事務所所長 (～2023年12月)
- 2019年 ストックホルム商科大学大学院マーケティング・戦略研究科 Ph. D. (国際ビジネス)
- 2020年～ 一橋大学イノベーション研究センター 専任講師

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

- Padrón-Hernández, Ivar, “Attachment and Adjustment in Expatriate Reactions to the 2011 Tohoku Disasters,” *Journal of Asia Business Studies*, Vol. 18, No. 4, April 2024, pp. 1021-1042, refereed
- He, Geer and Ivar Padrón-Hernández, “Home Country Influence in Cross-border Mergers and Acquisitions by Emerging Market Firms: A Systematic Review,” *Multinational Business Review*, Vol. 32, No. 2, June 2024, pp. 265-289, refereed
- Regnér, Patrick and Ivar Padrón-Hernández, “How Should Multinational Firms Navigate Local Rules?,” *Harvard Business Review Digital*, September 2024
<https://hbr.org/2024/09/research-how-should-multinational-firms-navigate-local-rules>
- Walravens, Tine and Ivar Padrón-Hernández, “The EU-Japan Economic Partnership Agreement in Japanese Print Media: A ‘Cars-for-Cheese-Deal’ or ‘the Black Ships of European Cheese’?,” *Asia Europe Journal*, Vol. 23, March 2025, pp. 1-22, refereed
- Padrón-Hernández, Ivar and Patrick Regnér, “Tomra’s Institutional Challenges,” *Exploring Strategy* (14th ed), London: Pearson, 2025
- Padrón-Hernández, Ivar and Kristina Kazuhara. *Bevaring og Revitalisering*. Forthcoming in A. Skovsted Hansen and J. Borup, *Oplev Japan*. Højbjerg: Forlaget Univers [in Danish]

2. コンファレンス, 学会発表

- Endo, Takahiro and Ivar Padrón-Hernández, “Managing after a State Takeover,” *Academy of Management Discoveries Paper Development Workshop*, November 21, 2024, online, refereed
- Padrón-Hernández, Ivar, “Avoidance and Involvement: How MNE Subsidiaries Leverage Local Institutions to Gain Influence in Global Strategy,” *Annual Conference of the European International Business Academy (EIBA)*, December 12-14, 2024, Aalto University, Finland, refereed

- Padrón-Hernández, Ivar and Yoshikatsu Shinozawa, “Beyond Profit: Examining the Impact of Product Margin and Firm Size on Green Burger Offerings in Sweden,” Global Hospitality and Tourism Research Summit, May 15-18, 2025, Fukuoka, Japan, refereed
- Short, Cole Evan and Ivar Padrón-Hernández, “Orphaned by Scale: How Strategic Attention and Collaboration Impact Rare Disease Innovation.” Academy of Management Journal Paper Development Workshop, June 23, 2025, Hitotsubashi Hall, refereed
- Padrón-Hernández, Ivar, “Differentiated Co-evolution of MNE Strategy and Host Country Institutions: A Three-Country Study,” Annual Meeting of the Academy of Management (AOM), July 25–29, 2025, Copenhagen, Denmark, refereed



吉岡（小林） 徹

■ 履歴

- 2005年 大阪大学法学部法学科卒業
- 2007年 大阪大学大学院法学研究科 法学・政治学専攻 博士前期課程修了
修士（法学・政治学）
- 2007年 株式会社三菱総合研究所研究員（～2012年）
- 2009年 東京大学政策ビジョン研究センター特任研究員（非常勤，～2012年）
- 2013年 東京大学政策ビジョン研究センター研究補佐員（非常勤，～2014年）
- 2014年 日本学術振興会特別研究員（DC2）
- 2015年 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 博士課程修了
博士（工学）
- 2015年 一橋大学イノベーション研究センター特任講師（非常勤，～2016年）
- 2015年 東京大学公共政策大学院特任講師（非常勤，～2016年）
- 2016年 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻特任助教（～2019年）
- 2017年 一橋大学イノベーション研究センター特任講師（非常勤，～2019年）
- 2019年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 2024年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

秋池篤・吉岡（小林）徹「『製品デザイン』の捉え方：経営学研究への応用」『組織科学』
58巻1号，2024年9月，20-30頁

Akiike, Atsushi, Sotaro Katsumata, Tohru Yoshioka-Kobayashi and Chris Baumann, “How ‘Smart’
Should Smart Products Look? Exploring Boundary Conditions of the Most-Advanced-Yet-
Acceptable (MAYA) Principle,” *Journal of Business Research*, Vol. 189, Article number
115108, February 2025, refereed

<https://doi.org/10.1016/j.jbusres.2024.115108>

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

枝村一磨・古澤陽子・吉岡（小林）徹・高橋真木子・渡邊万記子・隅藏康一「研究推進
支援人材は外部研究資金獲得や産学連携、研究生産性にどのような影響を与えるか：
オリジナルパネルデータを用いた実証分析」SeiREX-WP-2024-#01，政策研究大学院大
学科学技術イノベーション政策研究センター（SciREX センター），2024年4月

吉岡（小林）徹・片岡純也・横田一貴・柴山創太郎・川村真理「博士課程修了者の職務
満足度が高まる要因についての探索的研究」NISTEP Discussion Paper Series, No. 233,
2024年9月

3. コンファレンス, 学会発表

Yoshioka-Kobayashi, Tohru, “Measuring Product Design Innovations by Design Patents: A Study of the Correspondence between Design Patents and Design Award-winning Products,” International Academic Exchange Seminar between Graduate School of Technology Management at Hanyang University and IIR at Hitotsubashi University, May 8, 2024, Hanyang University, Seoul, Korea, invited

Yoshioka-Kobayashi, Tohru, “Technology Development of an Offshore Wind Power Generation System in Japan: A Utility Patent Analysis,” The 7th WIPO-Tongji International Intellectual Property Forum, June 29, 2024, Tongji University, Shanghai, China, invited

Yoshioka-Kobayashi, Tohru, Chihiro Takayama and Kanetaka Maki, “Designers Uncredited: Designers’ Names Crediting in Design Awards and Product Design Innovation Performance,” The 19th Annual Conference of the European Policy for Intellectual Property Association, September 12, 2024, Scuola Superiore Sant’Anna, Pisa, Italy

吉岡（小林）徹・片岡純也・横田一貴・柴山創太郎・川村真理「博士人材のトランスファーラブル・スキルと就職後の職務満足・異動」研究・イノベーション学会 第39回年次学術大会, 2024年10月26日, オンライン

吉岡（小林）徹・京俊介・申賢哲・河昇彬・小嶋崇弘「韓国の著作権フェアユース規定導入の要因についての組織論からの検討」日本知財学会 第22回年次学術研究発表会, 2024年12月4日, オンライン

吉岡（小林）徹・片岡純也・横田一貴・柴山創太郎・川村真理「博士人材のトランスファーラブルスキル：セクター間流動を促すために」NISTEP 国際共同セミナー, 2025年2月20日, オンライン

4. 受賞

研究・イノベーション学会より「ベストペーパーアワード」を受賞

（受賞者：吉岡（小林）徹・片岡純也・横田一貴・柴山創太郎・川村真理, 研究成果：「博士人材のトランスファーラブル・スキルと就職後の職務満足・異動」, 第39回年次学術大会, 2024年10月26日）

2. 特任研究員——2024年度



ホタモフ ナウルズ

■ 履歴

- 2011年 タジキスタン工科大学工学部卒業 (Diploma, 化学工学)
- 2015年 大阪大学 修士 (経済学)
- 2023年 京都大学 博士 (経済学)
- 2023年 一橋大学イノベーション研究センター 特任講師 (～2025年3月)

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の一章

Khotamov, Navruz, “Exports and Foreign Direct Investment in the Presence of Downside Risk,”
The World Economy, Volume 48, Issue 3, November 2024, refereed

<https://doi.org/10.1111/twec.13651>

Khotamov, Navruz and Naoto Jinji, “Correlation Aversion in Foreign Direct Investment,”
Finance Research Letters, Vol. 74, March 2025, refereed

<https://doi.org/10.1016/j.frl.2024.106728>

2. 未出版物

1.1. ワーキングペーパー

Khotamov, N., Jinji, N. “Beyond Volatility: How Correlation Risk Shapes Japanese Multinational Investment”. (under review at *Journal of the Japanese and International Economies*)

Khotamov, N., Jinji, N. “Correlation Aversion in Multinationals: Evidence from Japanese MNEs” (unpublished manuscript)

Khotamov, N., Jinji, N. “Internationalization, Diversification, and Risk Exposure” (unpublished manuscript)

Khotamov, N. “Multinational Risk Exposure and Innovation” (unpublished manuscript)

3. コンファレンス, 学会発表

Khotamov, Navruz and Naoto Jinji, “Correlation of Shocks and Multinational Activity,”
International Economics Workshop, March 13-14, 2024, Miyazaki Municipal University

Khotamov, Navruz and Naoto Jinji, “Correlation of Shocks and Multinational Activity,” IEFS Japan Fumio Dei Online Meeting 2023, hosted by Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University, March 30, 2024, Kobe University

Khotamov, Navruz and Naoto Jinji, “Correlation Aversion, Diversification and Risk Exposure: Japanese Foreign Direct Investment,” The 83rd Annual Conference of the Japan Association for International Economics, October 2024



李佳蓉 (リ カヨウ)

■ 履歴

- 2017年 对外経済貿易大学商学部卒業
- 2021年 一橋大学大学院経営管理研究科 修士課程修了
- 2024年 一橋大学大学院経営管理研究科 博士後期課程修了
- 2024年～一橋大学イノベーション研究センター 特任講師

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の一章

- Pesqué-Cela, Vanesa., Li, Jiarong., & Kim, Yun. Kyung. (2023). Overcoming the Liability of Foreignness in US Capital Markets: the Case of Alibaba and Coupang. *Asia Pacific Business Review*, 29(2), 323-349.
- Li, Jiarong., & Sasaki, Masato. (2024). Political Embeddedness and Corporate Social Responsibility (CSR) in a State-Led Developing Country: Evidence from China. *Asian Business & Management*, 1-25
- Li, Jiarong., & Sasaki, Masato. (2024). The Impact of State Ownership on Corporate Social Responsibility Reporting: A Comparison between State-owned and Non-state-owned Enterprises in China. *Management Communication Quarterly*, 38(3), 504-533.

2. コンファレンス, 学会発表

1.1. ワーキングペーパー

- Li, Jiarong., Driving Forces on Stakeholder Engagement in State-Owned Enterprises: Evidence from a Party-Sate-Led Country, Annual Meeting of the Society for Business Ethics (SBE), 8-11, August 2024, Chicago, USA
- Li, Jiarong., When Missions Collide: Governance Mechanisms in State-Owned Enterprises, Annual Meeting of Strategic Management Society (SMS), 19-22, October 2024, Istanbul, Turkey
- Li, Jiarong., Navigating Dual Systems for CSR Issues in State-Owned Enterprises, 2024 (14th) Annual Australasian Business Ethics Network Conference (Hybrid), 28-29 November 2024 (Presentation online)
- Li, Jiarong., Reinventing the State's Machinery: Tracing the Evolution and Future Agenda of CSR Research on Chinese State-Owned Enterprises, Annual Meeting of the Society for Business Ethics (SBE), 24-27, July 2025, Copenhagen, Denmark
- Li, Jiarong., Sculpted Systems, Woven Ties: Driving Forces Behind Stakeholder Engagement in State-Owned Enterprise, Annual Meeting of Academy of Management (AOM), 25-29, July 2025, Copenhagen, Denmark
- Li, Jiarong., Reviving Spirit of Community in A Market Society: Narratives in Japanese Enterprises' CSR Communication, Annual Meeting of Academy of Management (AOM), 25-29, July 2025, Copenhagen, Denmark

3. 兼任研究員——2024年度

■ 岡室 博之

一橋大学大学院経済学研究科 教授

■ 飯屋 広郷

一橋大学大学院法学研究科 教授

■ 西野 史子

一橋大学大学院社会学研究科 教授

■ 福川 裕徳

一橋大学大学院経営管理研究科 教授

■ 植杉 威一郎

一橋大学経済研究所 教授

4. 外国人研究員（客員）——2024年度

■ ポール ヘンリー・ジェンセン Paul Henry JENSEN

研究テーマ「Global Innovation and IP Policies」

2024年2月27日 ~ 2024年5月29日

■ キム・ドンヒュ KIM Dong-hyu

研究テーマ「Technological Standards and Patents, Platform Innovation and Competition, Catch-up Strategy, Digital Policy and Technologies, Emerging Economies, Niklas Luhmann's Social Systems Theory」

2024年3月8日 ~ 2024年6月16日

■ マイケル・クスマノ Michael CUSUMANO

研究テーマ「(1) Comparison of Corporate Venture Capital in Japan, the United States and Other Countries / (2) Platform Businesses and Valuations, Especially as Unicorns and then after IPO」

2024年10月28日 ~ 2025年3月31日

III. 教育活動

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 講義——2024年度

IIR 教員による講義の概要は以下の通りである。

■ 大学院経営管理研究科の講義

1. 研究者養成コース

「イノベーション経営特論」 秋冬学期 2 単位 軽部大
イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。

「イノベーション経済特論」 春夏学期 2 単位 中島賢太郎
イノベーションについて経済学的観点からの理解を行うことを目的とする。近年のイノベーションに関する統計的実証研究の紹介を行うことで、本分野についての最新の研究動向について理解を深める。

「知的財産特論」 春夏学期 2 単位 江藤学
特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権等の知的財産権法や不正競争防止法の制度や運用、さらに技術に関する国際標準化や認証（適合性評価）の仕組みや実態、標準必須特許について基礎的な素養を得る。経済産業省行政官の業務経験を生かした講義に加えて、特許データベースの活用や、知的財産に関する最新の学術研究についても紹介する。

「先端科学技術とイノベーション」 秋冬学期 2 単位 青島矢一、江藤学
経済社会への影響を考慮せずに現実性のある研究を行うことは難しくなっている。政策立案に関係する研究であれば、それはなおさらのことである。社会学者であっても現実社会に有益な知見をもたらす研究を行うためには、自然科学の発展を深く理解することが必要である。そこで本授業では、社会に大きな影響を与えてきた、また、与えつつある先端科学技術の重要領域を4つから5つとりあげて、最先端のイノベーションの事例を紹介するとともに、その社会科学的な意義を議論する。

「イノベーションと政策・制度」 秋冬学期 2 単位 江藤学
政策や制度がイノベーションに与える影響を知り、イノベーションを起こすツールとして政策や制度を使いこなしたり、新しい政策や制度を立案したりする能力を獲得し、イノベーション研究者・実務者としての基礎的素養とする。政策や制度がどのように作成され、施行され、社会を変革しているかを予測するための基礎的知識と思考能力を獲得する。

「イノベーションと経営・経済・政策」 春夏学期 2 単位 青島矢一、軽部大、江藤学、中島賢太郎、大山睦
科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義。イノベーション研究の全体像及び各論の基礎的な知識を身につける。

「イノベーション研究方法論」春夏学期2単位

青島矢一、カン・ビョンウ、吉岡（小林）徹
科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要なとされる、定量的、定性的方法論を習得するための講義。イノベーションの研究方法論についての基礎的な概念、視点、理論などを身につけることを目的とする。

「特別講義（イノベーションの国際比較 A）」春夏学期2単位 Ivar Padrón-Hernández

Why do potentially revolutionary products and services fail to become successful? How do companies take care of (or not) innovations developed by firms that they buy? What happens when companies try to introduce radical innovations in new countries? These are some of the questions we will discuss at this course, which aims to provide a deep understanding of the different challenges that arise when a company has to convince a market to accept its innovations. This is even more important in foreign countries, where different sets of norms and unwritten rules may impact the success of innovations. Both through instructor-led lectures, case sessions and a joint project, we study the complex and often overlooked dynamics at the tail end of the innovation process that may make or break a product or service that is otherwise competitive.

「技術戦略特論」秋冬学期2単位

青島矢一、吉岡（小林）徹
技術的なイノベーションを中心とする、イノベーションに関わる社会現象を経営学の視点から研究するための基礎的な知識を学ぶ。本講義では、イノベーションの特質、イノベーションのパターン、イノベーションの創出、そして、イノベーションと競争との関係性を主たるテーマとする。イノベーションとはどのような特質をもった現象なのか、どのような発生、変化のパターンをたどるのか、企業の競争や産業の構造にどのような影響をおよぼすのか、などの問題を検討する。これらの問題を扱っている主として海外の文献を読み、イノベーション研究に関する既存の概念、視点、理論、方法を理解することを目標とする。

「アントレプレナーシップ特論」春夏学期2単位

カン・ビョンウ
アントレプレナーシップ研究及びイノベーション研究関連の論文を精読する。それを踏まえ、これからどこに研究課題があるのかを考える。同テーマに関する議論の流れを把握と共に実証分析方法について学ぶことを目的とする。

「イノベーションリサーチセミナーⅠ」春夏学期2単位

青島矢一、江藤学、吉岡（小林）徹

「イノベーションリサーチセミナーⅡ」秋冬学期2単位

青島矢一、江藤学、吉岡（小林）徹

「研究領域演習（イノベーション）」通年6単位

中島賢太郎、大山睦

「研究領域副演習（イノベーション）」通年4単位

中島賢太郎、大山睦

「研究領域特論（イノベーション）」通年2単位

大山睦、中島賢太郎

「演習／演習 (Ph.D)」通年6単位

青島矢一、江藤学、大山睦、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎、吉岡（小林）徹

「副演習／副演習 (Ph.D)」通年4単位

青島矢一、江藤学、大山睦、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎、イバ＝パドロン・エルナンデス、吉岡（小林）徹

2. MBA コース

「経営組織」経営分析プログラム 秋冬学期 2 単位

「経営組織」経営管理プログラム 秋冬学期 2 単位

青島矢一

企業は、変化の激しい外的環境に効果的かつ効率的に適応する組織的仕組みを構築すると同時に、内部の人々から組織目標達成に必要なエネルギーを引き出す必要がある。こうした外的環境への適応と内的人材への働きかけの微妙なバランスをはかることが、組織マネジメントにとって重要なことである。そのために必要となる、様々な組織の理論や経営技法を提供することがここでの目的である。個人の動機付けに関わるミクロの組織論から、組織の設計や環境・制度との関わりを扱うマクロの組織論にいたるまでをカバーしながら、組織を運営するマネジャーとして必要なスキルを学んでいく。

「ビジネス・エコノミクス」経営分析プログラム 秋冬学期 2 単位

大山睦

経済学を用いてデータ分析を行う手法を学び、統計ソフトの R を使って自らデータ分析ができるようになることを目指す。また、消費者行動、ゲーム理論、寡占における競争理論に関する基礎的な知識も学んでいく。

「Advanced Course in Management (MBA)」経営分析プログラム 春学期 2 単位

Ivar Padrón-Hernández

What do companies have to deal with when crossing national borders? In this course, we take a broad approach to studying and discussing different aspects, challenges and opportunities of international management. As globalization is expanding, all countries are host to foreign firms and not only large multinational companies take part in international management. Therefore, understanding the dynamics of international management is valuable not only for students who wish to work in an international setting, but for any student that wants to have a grasp of the modern business environment.

「ワークショップ：経営 A」経営分析プログラム 通年 6 単位

青島矢一

「導入ワークショップ A」経営管理プログラム 春夏学期 2 単位

軽部大

「基礎ワークショップ A」経営管理プログラム 秋冬学期 2 単位

軽部大

3. 一橋大学知識共創機構

HFLP (一橋大学財務リーダーシップ・プログラム)

青島矢一：B コース 第8セッション：「経営戦略論」

三菱重工業株式会社 とのコンサルテーション業務

江藤学：第4回「国際標準・ルール形成」

青島矢一：第6回「企業ベンチマーク」

セイコーエプソン F2人材育成プログラム

カン・ビョンウ：第2クール「イノベーション・マネジメント」

■ 商学部の講義

- 「イノベーション・マネジメント」春学期2単位 吉岡（小林）徹
イノベーションは個人、組織、社会が絡み合う複雑な現象であり、未解明の法則も多々ある。そこで本授業では、イノベーションという現象を複数の焦点（個人、チーム、組織、地域、国）と学術的な視座（組織論、マーケティング論、戦略論、社会学、経済学）を切り替えて多角的に見ていくこと、そして、障壁の原因について自らで仮説を作り検証をしていくことを重視する。
これらの多角的な見方と仮説検証の力を身に付け、産業界や社会活動、行政、学術それぞれの世界で応用可能な次の能力を得ることを到達目標とする。
- 「イノベーション経済特論」春夏学期2単位 中島賢太郎
イノベーションについて経済学的観点からの理解を行うことを目的とする。近年のイノベーションに関する統計的実証研究の紹介を行うことで、本分野についての最新の研究動向について理解を深める。
- 「イノベーション経営特論」秋冬学期2単位 軽部大
イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。
- 「ビジネス・エコノミクス基礎Ⅰ」夏学期2単位 大山睦
ミクロ経済学の理論的枠組みを用いて、消費者や企業の様々な行動を理論的に考察する。企業行動に関する理論を主に学び、現実の経済問題に経済理論を応用できる力を養うことが、本コースの主目的となっている。本コースのキーワードは、産業組織論、価格戦略、製品差別化戦略、情報の非対称性、イノベーションである。
- 「ビジネス・エコノミクス基礎Ⅱ」冬学期2単位 中島賢太郎
統計的データ分析の理論、方法論の基礎についての講義および統計パッケージソフトによる実習を通じて、受講者が自分でビジネスエコノミクスに関する統計的データ分析が行えるようになることを目的とする。
- 「デザイン思考とデザイン経営」春夏学期2単位 吉岡（小林）徹 共同講義
「デザイン思考」と「デザイン経営」の「なぜ」を理解することに主眼を置き、その実践例や実践手法について考えていくための、理論的な手がかりと考える素材を提供する。

「特別講義（イノベーションの国際比較 A）」春夏学期 2 単位 Ivar Padrón-Hernández

Why do potentially revolutionary products and services fail to become successful? How do companies take care of (or not) innovations developed by firms that they buy? What happens when companies try to introduce radical innovations in new countries? These are some of the questions we will discuss at this course, which aims to provide a deep understanding of the different challenges that arise when a company has to convince a market to accept its innovations. This is even more important in foreign countries, where different sets of norms and unwritten rules may determine the success or failure of innovations. Both through instructor-led lectures, case sessions and a joint project, we study the complex and often overlooked dynamics at the tail end of the innovation process that may make or break an otherwise competitive product or service.

「Interactive Course on Business Basics (Management)」春学期 2 単位

Ivar Padrón-Hernández

Management is a broad topic that includes several different activities. In this course, we will cover how organizations compete against each other and the relationship between them and the societies where they exist. The course focuses mostly on questions of strategy, rather than issues or activities related to leadership, psychology, operations management, finance or accounting. Another characteristic of the course contents is that it often highlights things from an international perspective, considering the increasing role of globalization and students' future careers.

「Advanced Course in Management」春学期 2 単位

Ivar Padrón-Hernández

What do companies have to deal with when crossing national borders? In this course, we take a broad approach to studying and discussing different aspects, challenges and opportunities of international management. As globalization is expanding, all countries are host to foreign firms and not only large multinational companies but also small and medium sized companies do business across borders. Therefore, understanding the activities and dynamics of international management is valuable not only for students who wish to work in an international settings, but for any student that wants to have a grasp of the modern business environment.

「応用ミクロ経済分析」春夏学期 2 単位

大山睦

応用ミクロ経済学で用いられているデータ分析の手法を学ぶ。経済学と統計ソフト R を使って、卒論やビジネスの場面で応用できるデータ分析の力を養う。

「前期ゼミナールⅠ」春夏学期 2 単位

青島矢一、カン・ビョンウ

「前期ゼミナールⅡ」秋冬学期 2 単位

大山睦、カン・ビョンウ

「導入ゼミナールⅠ」春夏学期 2 単位

大山睦

「導入ゼミナールⅡ」秋冬学期 2 単位

大山睦、吉岡（小林）徹、中島賢太郎

「主ゼミナール（4年）」通年 4 単位

軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「主ゼミナール（3年）」通年 4 単位

軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「副ゼミナール（4年）」通年 4 単位

軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「副ゼミナール（3年）」通年 4 単位

軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「4年次ワークショップ」春夏学期 2 単位

吉岡（小林）徹 共同講義

「3年次ワークショップⅠ」春夏学期 2 単位

吉岡（小林）徹 共同講義

「3年次ワークショップⅡ」秋冬学期 2 単位

吉岡（小林）徹 共同講義

「2年次ワークショップ」秋冬学期 2 単位

吉岡（小林）徹 共同講義

2. イノベーションマネジメント・政策プログラム——2024年度

■ 概要

イノベーションマネジメント・政策プログラム (Innovation Management and Policy Program: IMPP) は、経営学や経済学を中心とする社会科学の知識を身につけながら、①イノベーションのマネジメント、または、イノベーションを促す政策形成や制度設計に関連するテーマで独自の研究論文を仕上げ、学術的なフロンティアを開拓するとともに、②民間組織におけるイノベーションのマネジメントや公的機関における科学技術イノベーション政策の形成に対して適切かつ重要な影響力をもちうる研究人材の養成のための教育を行うことを目的としたプログラムである。日本および国際社会がイノベーションを生み出す能力を強化もしくは向上させる上での学術的基盤を担う人材の育成を行う、教育（教員からの学術的知識の習得）と研究（教員との研究の実施）が一体化したプログラムとなっている。

本プログラムは、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』基盤的研究・人材育成拠点整備事業」による補助を受け運営している。

■ 受講者

本プログラムには、一橋大学大学院博士後期課程に所属する学生の他、社会人を含む修士課程修了者（もしくは、修士課程修了に相当する者）などが参加可能であり、カリキュラムは、水曜日の夜開講の必修科目と土曜日開講のイノベーションリサーチセミナー、平日開講の選択必修科目、その他特別講義などで構成されている。

本プログラムを修了するには、「イノベーションリサーチセミナー」、「必修科目」、「選択必修科目」の合計14単位の受講に加えて、論文2本の提出が必要となる。

■ 実績

2024年度在学学生 21名

	2023年度入学	2024年度入学
社会人学生	4名	3名
一橋大学博士後期課程学生	3名(0名)	2名(0名)
その他(再入学者含む)	0名	1名

() 内は経営管理研究科の学生

■ 2024年度の主な成果

6月22日～23日	【2024年度組織学会研究発表大会】 学会発表：学生1名 会場：明治大学
6月27日～29日	【第98回日本感染症学会学術講演会】 学会発表：学生1名 会場：神戸国際会議場
7月8日～11日	【The 33rd IAMOT conference2024】 学会発表：学生1名 会場：Alfandega do Porte Congress Centre
8月8日～11日	【2024 Annual Meeting of the Society for Business Ethics】 学会発表：教員1名 会場：The Royal Sonesta Chicago Downtown
8月9日～13日	【84th Annual Meeting of the Academy of Management】 学会発表：教員1名、学生2名 会場：Hyatt Regency Chicago

8月29日～30日	【IIR イノベーションリサーチワークショップ】 会場：一橋大学国立東キャンパス マーキュリータワー
9月13日～15日	【SciREX サマーキャンプ 2024】 参加：学生7名 会場：政策研究大学院大学
9月28日～29日	【2025年度組織学会年次大会 Special International Research Session Program】 学会発表：学生2名 会場：法政大学
10月26日～27日	【2024年度経営史学会第60回全国大会】 学会発表：学生1名 会場：東京大学
11月9日	【国際P2M学会2024年度秋季研究発表大会】 学会発表：学生1名 会場：青山学院大学
11月30日～12月1日	【日本村落研究学会 第72回大会】 学会発表：学生1名 会場：琉球大学 千原キャンパス
12月2日～4日	【ISPIM OSAKA2024】 学会発表：学生1名 会場：関西大学

■ 講義

必修科目

「イノベーション研究方法論」春夏学期2単位 青島矢一／江藤学／大山睦
科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要とされる、定量的、定性的方法論を習得するための講義を行う。

「イノベーションと経営・経済・政策」春夏学期2単位 青島矢一／江藤学／中島賢太郎
科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義を行う。

「先端科学技術とイノベーション」秋冬学期2単位 青島矢一
社会学者と最先端の技術者・研究者の組み合わせによるオムニバス形式の講義を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅠ」春夏学期2単位 青島矢一／江藤学
関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅡ」秋冬学期2単位 青島矢一／江藤学
関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

選択必修科目 ※経営管理研究科（研究者養成コース）と共通（Ⅲ-1.参照）

「イノベーション経済特論」春夏学期2単位 中島賢太郎

「知的財産特論」春夏学期2単位 江藤学

「イノベーション経営特論」秋冬学期2単位 軽部大

「イノベーションと政策・制度」秋冬学期2単位 江藤学

IV. 研究成果および刊行物



1. 一橋ビジネスレビュー——2024年度

イノベーション研究センターでは、研究成果の外部への報告として、機関誌『ビジネスレビュー』を年4回発刊してきたが、経営学とビジネスの現場を結ぶ日本発の本格的経営誌をめざして、2000年9月に『一橋ビジネスレビュー』（東洋経済新報社発行）としてリニューアルした。特集論文、経営学最先端のコラム、本格的なビジネス・ケース、経営者インタビューを掲載、最新の経営理論、経営手法の分析など、経営学の最先端の動きを初心者にもわかりやすい形で提示するよう心がけている。編集委員には一橋大学の教員のほか、他大学の研究者も含まれ、さらには外部企業からも編集顧問を迎えて、現場での実情を加味した内容となっている。

■ 本誌の特色

本誌は、経営学、イノベーション研究分野の研究者、学生、MBA、知的ビジネスパーソンなどを対象とし、以下のような点を特徴とする。(1) 大学の学問と現実のビジネスをつなぐために、知的挑戦と創造的対話の場を提供する、(2) 経営学者等の論文、ケース・メソッドを読むことで経営を考える力を養う、(3) 最新の日本企業のケース・スタディを毎号提供する、(4) 学生、MBAのために経営学のイノベーションの系譜をわかりやすく解説する。また、2007年度よりフロア参加者を募り、年1回程度、「一橋ビジネスレビュー・フォーラム」を開催。第一線で活躍している変革リーダー、経営者、専門家を招いての講演、パネルディスカッションを行っている。

■ 編集顧問

野中郁次郎（一橋大学名誉教授）

柳井正（株式会社ファーストリテイリング代表取締役会長兼社長）

山海嘉之（筑波大学教授／サイバニクス研究センター研究統括／CYBERDYNE 株式会社代表取締役社長／CEO）

■ 編集委員

学内

米倉誠一郎（委員長） 青島矢一 イバ・パドロニ＝エルナンデス 江藤学 大山睦 加賀谷哲之 加藤俊彦 軽部大 カン・ビョンウ 楠木建 七丈直弘 鈴木智子 中島賢太郎 中野誠 野間幹晴 福川恭子 藤川佳則 藤原雅俊 松井剛 吉岡（小林）徹 鷺田祐一

学外

浅川和宏（慶應義塾大学） 浅羽茂（早稲田大学） 網倉久永（上智大学） 生稲史彦（中央大学） 糸久正人（法政大学） 井上達彦（早稲田大学） 金井壽宏（立命館大学） 栗木契（神戸大学） 國領二郎（慶應義塾大学） 清水勝彦（慶應義塾大学） 清水洋（早稲田大学） 鈴木竜太（神戸大学） 武石彰（学習院大学） 西原（廣瀬）文乃（立教大学） 延岡健太郎（同志社大学） 藤本隆宏（早稲田大学） 守島基博（学習院大学） 山田仁一郎（京都大学） 米山茂美（学習院大学） M.Cusumano（マサチューセッツ工科大学 米国） 李 亨五（淑明女子大学校 韓国） 徐 正解（慶北大学校 韓国）

■『一橋ビジネスレビュー』 第72巻1号 2024年7月

○特集「サステナブルデザイン：新しい発展と成長を支えるデザインの力」



産業革命以降、人類が追求し続けた大量生産、大量販売、大量消費、大量廃棄という経済パラダイムが限界に到達している。限られた地球資源を丁寧に使いながら持続的成長と環境保全を両立させる新しいモデルが各分野で求められているのである。本特集では、そうした新しいパラダイムを支えるデザインの力に迫る。それは、単に意匠という意味のデザインにとどまらない。いかなるマテリアルをいかに効果的かつ効率的に利用していくのか。生産工程の簡素化まで見込んだプロダクトデザインのあり方、さらには、当初から膨大な廃棄を想定した受発注の根本的な見直しなど、これまでの常識を覆すような広義のデザイン革命を含むものである。

○特集論文

パトリック・ラインメラ／米倉誠一郎「サステナブルデザインとは成長のことなのだ」

似内志朗「ファシリティマネジメントとサステナブルデザイン」

ファラ・タライエ「サステナブルデザインの再構築」

水野大二郎「サステナブルファッションの発展に関する概念的検討」

田中浩也「日本型サーキュラーシティのトータルデザイン：鎌倉型『中都市モデル』の可能性」

井上悖「未来志向のサステナブル不動産：環境とAIの融合」

○特別寄稿

野中郁次郎／川田英樹／川田弓子「二項動態による集合『実践知』創造」

○連載

佐藤大輔「理解のマネジメント (2)：理解を通じて人を動かす」

荒井邦彦「産業変革の起業家たち (19)：日本のスタートアップにM&A イグジットという選択を」

インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

島貫智行「戦略人事の考え方 (4)：人材マネジメントによる組織力の構築」

○ビジネス・ケース

網倉久永／姜一麒「Ankerグループ：製品改良からイノベーションへ」

軽部大／宮澤優輝／山田仁一郎「レノバ：持続可能な社会を形にする」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 米倉誠一郎

岩元美智彦（株式会社 JEPLAN 取締役 執行役員会長）

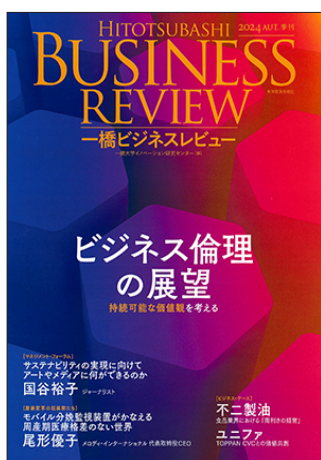
「消費者の『楽しい』を主役に、日本発の循環型社会をつくる」

○第23回ポーター賞

大藪恵美「ポーター賞受賞企業に学ぶ」

■『一橋ビジネスレビュー』 第72巻2号 2024年10月

○特集「ビジネス倫理の展望：持続可能な価値観を考える」



昨今、社会的なグローバル課題や価値観の変化は、新しい規範の形成を促している。これにより、企業活動の法的順守だけでなく、法の領域を超えた社会的責任や持続可能な発展にかかわる取り組みをどうビジネスに反映させ、統合していくかが戦略的重点となる。本特集では、変化するビジネス規範と環境の展望を念頭に、課題に焦点をあわせ、革新的なアプローチを検討し、持続可能な未来に向けた多様な側面からの洞察を提供する。取り上げるトピックは、新型コロナウイルス感染拡大後に変化した消費者の社会的価値、共創的アプローチで地域持続性の課題に取り組む「リビングラボ」、高齢者福祉分野の「有償ボランティア」、サーキュラーファッションへのアプローチと持続可能なビジネス戦略、サーキュラーエコノミーの実現

に向けた日本の取り組みである。

○特集論文

村嶋美穂「変化する価値観：新型コロナ流行が社会志向型商品の購買行動に与える影響」

芳賀和恵「地域の社会的課題を解決する共創の手法としてのリビングラボ」

齊藤紀子「有償ボランティアにおける謝礼金が生み出す会計的なジレンマ」

ロバント・サウ「スローイングの観点から見た日本の循環型経済：歴史と現在の展開」

赤石枝実子「持続可能性とウェルビーイングの包含：『ZOZOUSSED』の実践から考える新しいビジネスエシックス」

○特別寄稿

鈴木竜太／砂口文兵「忙しいリーダーのパラドクス：多忙なリーダーがもたらすフォロワーの管理職への意欲低下」

○連載

佐藤大輔「理解のマネジメント (3・最終回)：自律性と創造性」

尾形優子「産業変革の起業家たち (20)：モバイル分娩監視装置がかなえる周産期医療格差のない世界」
インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

○ビジネス・ケース

田路則子／蜷川晴伸「不二製油：食品業界における『両利きの経営』」

吉田聖崇／青島矢一「ユニファ：TOPPAN CVC との価値共創」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 米倉誠一郎／福川恭子

国谷裕子 (ジャーナリスト／東京藝術大学理事)

「サステナビリティの実現に向けてアートやメディアに何ができるのか」

○投稿論文

中尾悠利子／國部克彦／奥田真也／喜田昌樹「経営トップの特性はCSRに影響するのか：日本企業の実証分析」

■『一橋ビジネスレビュー』 第72巻3号 2024年12月

○特集「ソーシャル・データサイエンス：データが拓く社会の未来」



2024年はノーベル物理学賞と化学賞がともにAI関連で授与され、この技術が萌芽期を過ぎ、人類に大きなインパクトを与えていることが示された。しかし、国際秩序の不確実性が高まるなか、データやAIをめぐる国際連携の方向性も不透明であり、AIに代表されるデータ駆動型アプローチには、期待と不安が交錯する。特に、人類が抱える複雑な社会課題の解決には、技術だけでなく、多くのステークホルダーの関与、ルールや合意形成が必要であり、データ駆動型アプローチだけでは、その解決は不可能である。このような状況において、社会科学とデータサイエンスの融合である「ソーシャル・データサイエンス」が、社会課題の解決に貢献することが期待されている。本特集では、その概念と応用事例を通じて、複雑な社会問題

にソーシャル・データサイエンスがどのように貢献できるかを考察していく。

○特集論文

七丈直弘「社会を変革するソーシャル・データサイエンスの挑戦」

副島豊「生成AIの急激な進化と社会のDX」

赤井厚雄「社会経済のDXとEBPMの展望」

清水千弘「地域課題の解決における『人間』と『機械』の分業：空き家対策を事例として」

檜山敦「高齢者の社会参加から多世代共創の地域づくりへ」

寺田麻佑「AI活用の推進とデジタル化：日本とEUにおける展開」

○特別寄稿

山口一郎「AIを使いこなす共感経営」

○連載

生稲史彦「コンテンツビジネスから見る世界(1)：デジタル技術が変えた30年」

島貫智行「戦略人事の考え方(5)：サステナビリティを追求する人材マネジメント」

倉又朗人「産業変革の起業家たち(21)：社会を変えるパワー半導体の実用化をめざしたカーブアウトという決断」
インタビューアール 青島矢一／藤原雅俊

○ビジネス・ケース

西原（廣瀬）文乃「吉本興業：47都道府県に広がる『あなたの街に住みますプロジェクト』」

新海博章／荻津健史／諏澤岳広／伊藤太郎／秋野里奈／高木真規子／青島矢一

「花岡車輛：『台車』兄弟による老舗物流機器メーカーの変革」

○マネジメント・フォーラム インタビューアール 米倉誠一郎／七丈直弘

西川徹（株式会社 Preferred Networks 代表取締役最高経営責任者）

「垂直統合型モデルでサステナブルAIの実現へ」

■『一橋ビジネスレビュー』 第72巻4号 2025年4月

○「資本主義の再考：求められる企業とリーダーの役割」



世界には現在、競合する2つの有力な経済システムが存在する。欧米経済の多くで支配的な株主資本主義と、新興市場の多くで顕著な国家資本主義である。どちらのシステムも、この数十年間、驚異的な経済発展をもたらした。しかし、いずれも社会的・経済的・環境的に大きなマイナス面をもたらしたことも指摘され始めている。行き過ぎた資本主義に警鐘を鳴らすように、ダボス会議をはじめとして、ステークホルダー資本主義が提案されている。ステークホルダー資本主義では、経済と社会におけるすべてのステークホルダーの利益が考慮され、企業は短期的な利益以上のものを求めて最適化し、政府は機会の平等、競争における公平な土俵、システムの持続可能性と包括性に関して、多様なステークホルダーへのより公平な貢献と分配の守護者となるこ

とが求められる。本特集では、資本主義を再考し、資本主義の未来について検討する。企業は、財務リターンの最大化を追求すると同時に社会の公器としての役割を果たすには、どうあるべきか。これからの社会で求められる企業やリーダーの役割を議論する。

○特集論文

野中郁次郎／大藪恵美「現代経営における危機と二項動態経営」

御立尚資「『並存の時代』と経営」

名和高司「エシックスを基軸としたパーパスの実践」

遠藤信博「価値創造の本質に近づく努力」

溝淵由樹／鳥居希／篠健司「社会を良い方向に変える力としてのビジネス」

高島宏平「ビジネスを通じて、食の社会課題を解決する」

○連載

生稲史彦「コンテンツビジネスから見る世界(2)：ゲームのビジネス化がもたらしたこと」

島貫智行「戦略人事の考え方(6)：従業員体験を最大化する人材マネジメント」

松本恭攝「産業変革の起業家たち(22)：日本発グローバルスタートアップへの挑戦」

インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

○ビジネス・ケース

阿部亮平／矢野孝彦／若井理恵子／青島矢一「ワークマン：客層拡大に向けた自走式組織への変革」

高橋和宏「弁護士ドットコム：電子契約の普及に向けた挑戦」

○マネジメント・フォーラム

インタビュアー 大藪恵美

川本裕子（人事院 総裁）

「人事制度の見直しで霞が関の働き方を変える」

○第24回ポーター賞

大藪恵美「ポーター賞受賞企業に学ぶ」

○米倉誠一郎「巨星墜つ：野中郁次郎名誉教授の死を悼む」

The new combinations appear discontinuously, then
the phenomenon characterising development emerges.

Joseph A. Schumpeter
The Theory of Economic Development

編集・発行 一橋大学イノベーション研究センター
〒 186-8603
東京都国立市中 2-1
TEL 042-580-8411 (代表)
FAX 042-580-8410
<http://www.iir.hit-u.ac.jp>



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research